

東日本大震災 被災者支援チャリティー・コンサート

ズービン・メータ指揮 NHK交響楽団 特別演奏会



被災者支援のために《第九》を力演するズービン・メータ、4人のソリスト、合唱団、そしてN響。
この日の模様は4月のN響アワーでも放映されました



大地震のあった3月11日に日本に滞在していたメータは、急遽このコンサートのために再来日しました



終演後、ロビーで募金を呼びかける楽員たち

©東京・春・音楽祭実行委員会
撮影：青柳聡

東日本を襲った大震災から1か月が経とうという4月10日午後、原発事故の影響から外国人演奏家の公演中止が相次ぐなか、急遽来日した巨匠ズービン・メータとNHK交響楽団の共演により、被災者を支援するチャリティー・コンサートが開催されました。

東京文化会館大ホールに登場したマエストロは最初に聴衆と演奏

家に起立を求め、大震災の犠牲者に黙禱を捧げます。「桜が満開となる今日、避難所で闘っている被災者の方々が来年以降も一生涯、桜を楽しめますように」と述べて、バッハ《G線上のアリア》を指揮。鎮魂の響きが鳴り止んだあとも、沈黙の内に祈りが捧げられました。

そして、あらためてタクトが振り下ろされると、ベートーヴェン

《交響曲第9番「合唱つき」》の開始です。「苦難を突き抜けて歓喜へ」というテーマが、現実のカタストロフや被災者への思いと重なります。終楽章では並河寿美（ソプラノ）、藤村実穂子（メゾ・ソプラノ）、福井敬（テノール）、アッティラ・ユン（バス）による圧倒的な歌唱、東京オペラ・シンガーズ（合唱指揮：宮松重紀）の壮大

な合唱により、人間賛歌が力強く歌い上げられました。

終演後いつまでも鳴り止まぬ拍手と満場のスタンディング・オベーション。この困難な時期に来日し、かけがえのない音楽の贈り物をしてくれたマエストロと、演奏者たちのボランティア精神に鼓舞され、来場者全員が勇気をもって会場を後にしました。